

南アルプス市立豊小学校自己評価書

令和7年1月24日（金）

1 自己評価の経過

- (1) 前期教職員自己評価・児童対象アンケート実施（7月）
- (2) 前期自己評価及びアンケート結果を基にした職員会議にて状況分析と改善方策の検討（8月）
- (3) 後期教職員自己評価・児童対象アンケート及び保護者アンケート実施（12月）
- (4) 自己評価及びアンケート結果を基にした職員会議にて状況分析と改善方策の検討（1月15日）
- (5) 学校関係者評価委員による自己評価書の検討（1月24日）

2 学校評価の分析と改善方策

〔1〕評価規準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

今回は、前期自己評価と比べた後期自己評価についての考察を記載する。

教職員による自己評価を見てみると26項目のうち24の項目で【A】【B】評価の合計が90%以上の割合になっている。また、評価の平均値を前期と比較すると22項目はほぼ等しい値であったが、3項目においては値が上昇していて、1項目で下降している。そして、否定的評価に目を向けると、10項目において【C】評価の回答があった。これらを総合的に判断すると、前期から改善できている項目もあるが、まだ改善すべき状況もいくつかあるといえる。

児童アンケートにおいては【A】【B】評価の合計が80%を超えている項目は、17項目中14項目あり、その内、12項目で90%以上の肯定的評価で、全体的には良好な結果が得られている。

【C】【D】評価に焦点を当ててみると、「⑧私は家の人に学校のように話を話している。」「⑩わたしは授業中に自分の考えを伝えている」「⑬わたしは本を読んでいる」の3項目は20%を超えており、更に、前期に比べ3%以上肯定的評価が減少していたので『改善の余地がある状態』と言える。

保護者アンケートでは、13項目中9項目で【A】【B】評価の合計が80%を超えていた。一方で「⑮PTA活動は保護者と教職員の協働により、子どもたちのよりよい教育活動につながっていますか」について【C】【D】評価の合計が10%を超えていて『改善の余地がある状態』に当てはまらないが、保護者の要望欄にも意見が増えていることもあり、状況を見直し考える必要があると言える。

〔3〕結果の考察

(1) 学校経営・組織について（項目①～⑦、⑧等）

教職員の自己評価を見ると、全てにおいて肯定的評価が80%を超えており、また、平均値も7項目で3.5を超え、『満足できる状態』であると言える。教職員一人一人が学校教育目標の実現に向かって、校務分掌における自己の任務を責任をもって取り組んだり、PDCAサイクルで教育活動の向上に努めたりしている。また、職員間の報告・連絡・相談も密に行い、チームとして教育実践を行っている。

南海トラフ大地震が予想される近年、危機管理体制も強化している。今年度、第1回避難訓練をこれまでより早く進級してすぐに行った。また、5月には橿形中学校区小中一貫校で同日同時刻に引き渡し訓練を行い、より実践に即した訓練を行った。6月には御勅使川氾濫を想定した垂直避難訓練も行った。避難訓練を複数行い、その都度指導・ふりかえりを行い、いざというときに自分の命を自分で守ることができる児童の育成を目指している。また、毎月初めに安全点検を行い、危険個所の早い発見と対応を心掛けている。

特別支援教育については「通常学級在籍担当」「不登校担当」「特別支援学級在籍担当」の3名の特別支援コーディネーターの教職員を配置している。その結果、早期に校内支援委員会やケース会議を開催し、情報共有と指導・支援内容の相談・確認ができています。コーディネーター中心に担任、管理職、外部関係機関などと連携し、担任が一人で困らないように、複数の視点からその児童により良い支援ができるように考えることができています。

(2) 学習指導について (項目⑥、⑧～⑬、⑳等)

本校では、確かな学力を身に付けた子供を育てるために「豊小学校学びプラン」を作成し、学習規律や学習習慣の定着に取り組んでいる。また、校内研究の主題を『「人間性豊かな児童の育成をめざして」～主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業改善を通して～』とし、研究を進め、学習指導要領で示される資質・能力の育成に取り組むとともに、普段の授業の中でも実践・検証に努めてきた。

教職員による自己評価の結果では、8項目全ての項目で【A】【B】評価が80%を超えていた。平均値も7項目で3.5を超えていた。このことから教職員が「豊小学校学びプラン」や校内研究を基に共通理解のもと、学習指導を行っていることがわかる。特に「⑧授業の中でめあてを示しているか」は前期より平均値が0.34上昇し、3.88になり、大きく改善されている。「⑧教材・教具（ICT機器を含む）の活用」も3.8を超えていたり、「⑳対話を意識した学びあいを授業に取り入れている」も前期より0.37上昇していたり、教職員の授業改善が見られた。

児童アンケートの回答においても「⑨わたしは学校の授業が分かる」は【A】【B】評価が95.4%、「⑩自分の考えをもって、他の人の話を聞いている」は97.1%であった。保護者アンケートの「②お子さんは授業の内容が分かっているか」も88%となっていて授業改善の成果と考えられる。しかしながら、【C】【D】評価に目を向けると4.6%の児童が「授業が分からない」と回答しており、保護者も9%が「授業の内容が分かっていない」と回答している。また、「⑪授業中に自分の考えを伝える」は【A】【B】評価が72.1%と『改善の余地がある』状態であった。誰一人として取り残さない授業ができるよう、これからも授業改善に取り組んだり、学校の支援体制を整えたりしていきたい。「⑬本を読んでいる」についても【A】【B】評価が75.8%であり『改善の余地がある』状態であった。教職員アンケートでは95%が【A】【B】評価であったが、【A】評価は26%であった。学校行事等で忙しくなると読書の時間は減少する傾向にある。学習活動・学校行事の精選、読書の時間を意識的に設ける、おすすめの本の紹介など読書活動を推進する活動を行うなどの工夫をしていく必要がある。

(3) 生徒指導・生活指導について (項目⑭～⑱等)

教職員による自己評価では全ての項目で【A】【B】評価100%という良好な結果であった。平均値も全ての項目で3.5を超えている。これらの項目は前期も肯定的評価が100%であり、平均値も前期とほぼ同じ結果である。教職員が日頃より児童とコミュニケーションをとることを大事とし、いじめ等早

期発見・早期対応に努めていることが分かる。

児童アンケートでも「①わたしは学校が楽しい」95%、「②わたしは学校のきまりを守っている」93.3%、「④困ったことがあったら相談できる先生がいる」90.0%と肯定的評価が多かった。

しかしながら、学校は全ての児童にとって楽しく充実した場所である必要がある。「楽しい」と思っていない5%の児童、「困っているときに相談できる教師がいない」と思っている10%の児童への対応を見逃すわけにはいかない。保護者アンケートには「⑭学校は子どもの問題に適切に対応しているか」で肯定的評価79%、否定的評価9%、わからない12%という結果もある。保護者が学校に求める要求の高さもうかがえる。これらの改善策として、やはり日々の児童の様子をよく見て、児童の少しの変化にも気づくようにしていくことが大切である。また、「いじめアンケート」や「学級力向上プロジェクト」から見えてきた課題に早く適切な対応を行うことや、定期的に行っている、「いじめ対策委員会」や「特別支援校内委員会」を有機的に機能させ、児童の様々な諸課題について、チーム豊として全職員で指導支援していけるようにすることなどを通して改善していきたい。

携帯電話について行った児童アンケートでは、「自分の携帯電話・スマートフォンをもっている」と回答した児童は学校全体では42.5%であった。所有率を学年別にみると、1年生24%、2年生36%、3年生40%、4年生54%、5年生59%、6年生44%と学年が上がるにつれて所有率が高くなる傾向がある。所有している中でルールが決められている割合は71.3%であり、前期の84%に比べてルールなしで所有している率が高くなった。今年度も5、6学年で講師を迎え、「SNSの使い方」の授業を行った。また一人一台端末を利用する際の約束を確認するなど、機会があるごとに情報モラル教育に力を入れている。教職員はさらに指導力を高めていくとともに、家庭への啓発も引き続き行っていく必要がある。

楕形スタンダードの項目に掲げている内容について児童アンケートの結果を見ると、「②わたしは学校のきまりを守っている」93.3%、「⑥無言清掃」88.8%、「⑦下駄箱の靴をそろえている」95%、「⑭自分からあいさつをしている」90%と肯定的評価が多かった。児童会が中心となり『無言清掃～』そうじは「だいじ』『にこにこタッチ！あいさつ運動！』や「キラピタはきものそろえ」などの活動を行ったことで、児童の規範意識が高まっていったと考えられる。

活動を通して同じ目標に向かい全校児童が一致団結して取り組むこと、教職員は共通理解のもと、児童にわかりやすい同一の指導を行うことで豊小の生活規律が整ってきた。今後とも落ち着いた学校生活を送ることができる生徒指導・生活指導を行っていきたい。

(4) 保護者・地域との連携について（項目⑱⑲等）

保護者との連携を保っていくには、学校からの情報発信はなくてはならない。児童の学校での様子を知らせることや教師の思いを伝え共感してもらえることで協力が得られる。「⑱おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報している」については、前期より平均値が上がり改善傾向がみられる。保護者アンケートからも「⑧学校（学年・学級）だよりやホームページから教育活動の様子を知ることができるか」に92%の肯定的評価が得られている。学年だより、学級だより等で児童の活動の様子等を知らせたり、ホームページの「お知らせ」で2学期から学校の様子を簡単に知らせたりしてきた。通信やホームページの原稿作成が業務負担にならないよう、各学年からは学期に1回、活動の様子を「学校の広場」に載せている。1学期より負担なく充実させてきたので、今後とも続けていきたい。

また、「⑲地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」については【A】

評価が40%に届かず前期とほぼ同じ結果となり、あまり改善できていない。感染症対策から制限していた期間があり、「地域の教育力」が見えなくなっている状態が改善できていないともとらえられる。

「これまで」の地域の教育力だけでなく、「真に必要なもの」を見極めながら、また新たに地域人材、施設を教育に取り入れる方法を考え、実践を積み重ねていきたい。

「⑨学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか」は【A】【B】評価80%、「⑮PTA活動は、保護者と教職員との協働により、子どもたちのより良い教育活動に繋がっていますか」は【A】【B】評価66%という結果であった。「⑨耳を傾けているか」は【A】【B】評価80%であるものの、【A】評価は14%、「⑮PTA活動」は【A】評価13%であり、「改善の余地がある状態」といえるであろう。自由記述の欄には保護者のPTA活動に対する負担を訴える意見も複数ある。コロナ禍でできなかった活動が復活することで保護者にとって負担が増えたと感じることもあるだろう。

特色ある教育活動、安心安全な学校づくりには保護者・地域の協力は不可欠である。より良い連携ができるよう見直し・改善をする必要がある。

(4) 小中一貫教育について(項目⑳～㉓等)

令和4年度に楡形地区の小中学校5校は“楡形中学校区小中一貫校”として新たなスタートをした。それぞれの学校が特色を生かしながらも一貫校として共通の理解を図りながら、児童生徒を育成することをねらいとしている。そのために共通項目を設けている。

教職員による自己評価では、3項目とも肯定的評価は90%を超えていた。「㉑対話を意識した学びあいを授業に取り入れているか」「㉒深い学びになるよう課題や発問の工夫をしているか」は2学期拡大校内研究で本校や他校の研究会に参加して学んだことを日々の実践に活かそうとした結果であると思われる。「㉑めあての提示」「㉑言語活動の効果的な取り入れ」「㉑評価」も小中一貫教育の「主体的・対話的で深い学び」の実現のための学習プロセスの一部だが、全ての項目で【A】【B】評価90%を超えている。教職員一人一人が小中一貫教育で目指す児童生徒の育成を理解し、日々実践している。

「㉓Simplifyプログラムの目的意識を理解して指導に取り組んでいるか」については【A】評価が38%であるものの、【B】評価が半数を超えており、前期に比べ平均値も3.32から3.38へと高くなっている。教職員で学習会を行ったり、他者の実践を見たりする中で以前より理解してきている。Simplifyプログラムで「かかわりの力」を育て、自己理解・他者理解を通じて共感的な人間関係を育んだり、自尊感情と自己肯定感を高めたりすることを目指していく。また、教職員も校内研究会だけでなく、小中一貫教育合同研究会での取組のなかで、他校からも学び、授業改善を行っていきたい。

(5) その他(項目㉔㉕㉖等)

「㉔民主的で規律ある学級(学年・学校)集団作りを行っているか」は肯定的評価が90%、否定的評価10%であった。児童アンケート「㉑学校が楽しい」の肯定的評価は95%、否定的評価は5%であったが、児童が「学校が楽しい」と思うために民主的で規律ある集団づくりは絶対必要である。校内研究で取り組んでいる「学級力向上プロジェクト」や「豊小学校学びプラン」等を基にこれからも、豊小学校としての集団作りを行っていきたい。また、集団生活が難しい児童支援にも力を入れていきたい。

「㉕諸帳簿や文書、記録媒体を適切に管理・活用しているか」は肯定的評価100%であった。「リモート接続」の活用や県の「校務支援システム」導入から、機微情報についてのセキュリティが高められた。「データ情報」の管理とともに、プリントやノート等の「紙媒体」での情報管理をこれからも適切

に行っていきたい。

「㊸働き方改革を意識して、積極的に業務改善に取り組んでいる」については肯定的評価が90%であったが、【A】評価は45%であった。昨年度よりは改善しているが、前期【A】評価は68%であったため、下降している。2学期は大きな行事が行われた。その中で教師の仕事量が増えてしまった部分もある。毎月の時間外勤務については、月45時間を超過するとPC上にメッセージが現れ確認できるので、自己管理可能である。45時間を超過する職員はいるが、月80時間を超える教職員はいない。会議や研修が参集となり、行事予定を見ただけでも多忙化が感じられてしまう。行事や業務内容をきちんと精選し、全員で精査する取組を進めていく必要がある。

これからも「信頼と笑顔、創意工夫して未来をつくる教師」をめざし、「たくましく心豊かな子供の育成」のためチーム豊小で取り組んでいきたい。